

報告事項 キ

令和元年度韓国江原道教員交流派遣について

令和元年度韓国江原道教員交流派遣について、別紙のとおり報告します。

令和元年6月25日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

## 令和元年度韓国江原道教員交流派遣について

令和元年6月25日  
小 中 学 校 課  
特 別 支 援 教 育 課  
高 等 学 校 課

### 1 趣 旨

鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁との教育交流の一環として、訪問団を派遣し、学校及び教育関係施設訪問をとおして、教育問題等について意見交換を行い、相互理解と友好を深め、交流の促進を図るとともに、国際理解教育をはじめとする本県教育の向上に資する。

### 2 派遣期間

令和元年6月11日（火）～6月14日（金）

### 3 訪問団の構成

団長 小学校校長

副団長 中学校教頭

団員 小学校教諭2名、中学校教諭1名、特別支援学校教諭1名、  
高等学校主幹教諭1名、高等学校教諭1名、事務局他2名

### 4 日程

期日	内 容
6月11日（火）	・結団式 13:45（米子空港内） ・米子空港発 15:00（RS746） 仁川空港着 16:40 ・江原道へ移動 江原道泊
6月12日（水）	・江原道教育庁へ表敬訪問 ・江原道春川中学校訪問 ・文化施設見学（アニメーション博物館） 江原道泊
6月13日（木）	・江原道牛山初等学校訪問 ・原州女子高等学校訪問 ・文化施設見学（原州韓紙テーマパーク） 仁川泊
6月14日（金）	・仁川空港発 9:30（RS745） ・米子空港着 11:00 ・解団式 11:45（米子空港内）

### 5 その他

鳥取県教育委員会と韓国江原道教育庁は、1995年に姉妹結縁協定を締結して以来、教育長と教育監との相互定期訪問、教員交流、高校生のスポーツ交流、児童生徒の美術作品交流など、さまざまな交流を行ってきている。鳥取県からの教員訪問団派遣（訪韓）は今回が13回目となる。

## 1 江原道教育庁訪問

○教育庁職員から盛大な出迎えを受けた後、ミン・ビョンヒ教育監と面会し、挨拶、視察団の自己紹介を行い、記念品を交換、記念撮影を行った。その後、教育庁の担当者から江原道施策について説明を受け、情報交換を行った。その様子は、地元メディアで同日夕方のニュースで放映された。

・江原道には、幼稚園366園、小学校349校、中学校162校、高等学校116校、特別支援学校7校の計1000校があり、173,977人の子どもたちと15,711人の教員により学校（園）運営がなされている。

・江原道教育のビジョンは「みんなのための教育」である。「みんなのための教育」とは、みんなの幸せのために、差別を無くして普遍的な教育福祉を求めることであり、無償の教育、質の高い教育、正義のある教育によって、教育の先進地として個人と共同体が調和した幸せを求めている。

・本年度の中心施策は以下の3点である。

### ① 基礎学力の責任教育（ハングル・英語・数学）

ハングル（国語）では、ハングルを通じて読解力を身に付けること、英語科では、英語の4技能に基づいた英語学習、数学科では、考える力を育てる楽しい授業実践を目指している。

### ② 江原幸福高等学校の運営

江原幸福高等学校とは、江原道の全ての高校が地域社会との協力を基本として未来志向的な教育課程を共に運営する高等学校の運営体制のことであり、未来社会に相応しい教育目標を設定し生徒一人一人が自分の人生の主人公として能動的に生きる力を育むこと、また江原道ならではの地域的特色を反映した支援体制を構築し多様で開放的な教育課程を運営することを目指している。

### ③ 民主市民教育

民主市民教育とは、思考力を持つ能動的な市民が民主主義を尊重し、共に生きる力を育む教育のことであり、主体的な市民としての力量強化を目指している。

## 2 施設訪問の概要

### ■ 春川（チュンチョン）中学校

○パク・ジュヒ校長に出迎えられ、訪問団の挨拶、自己紹介を行った後、校長からの学校紹介、記念品の交換を行った。その後、学校施設の視察と授業参観を行い、教授・学習方法の改善に関する説明を受け、情報交換を行った。

・2017年全国教育課程優秀校に江原道で唯一選ばれた学校であり、今年度は、「学校スポーツクラブ活性化を先導する学校」など複数の江原道の指定を受けて研究を進めている。

・2019年度、創意的で自律的な学習能力を持つ生徒の育成、尊敬と信頼を受ける教師、夢や才能をもって未来を目指す生徒や教育共同体として、みんなが幸せな学校を目標としている。

・今年度から男女共学となり、1年のみ78人の女子生徒が在籍し、629人の生徒が学んでい



5대 정책의 기본방향



る。年間総時間数は1122時間で、教科時間が1020時間、創意的体験活動が102時間である。1年生は「自由学期制」を適用し、年間221時間、選択参加型授業や素質や適性を育む体験活動を実施している。自由学期制の活動は、生徒たちの選択を尊重するテーマ選択学習、進路探索、部活動などであり、生徒中心の授業を行っている。

### ■ 牛山（ウサン）初等学校

○イム・ヨンシン校長に出迎えられ、訪問団の挨拶、自己紹介を行った後、校長からの学校紹介、記念品の交換を行った。授業参観の後、図書室で児童が作成した学校紹介ビデオを鑑賞し、キム・ブソン教頭から教育活動についての説明を受け、意見交換を行った。

- ・この学校は、教員20人、事務職員4人、教育支援員17人で運営している。部活動が盛んであり、バドミントン部は、江原道で毎年、優勝もしくは好成績を収めている。
- ・現校長が就任して3年目で、教室の壁の塗り替えを行ったり、図書館に自由に学習に活用できるスペースを作ったりするなど、明るく過ごしやすい空間を提供することを重点的に取り組んでいる。
- ・教育目標は以下の3点である。

#### ①人生教育

チェンジメーカープログラムに取り組んでいる。チェンジメーカープログラムとは、児童が学校を良くするために何ができるかアイデアを出し、各学級の代表が集い実現可能なことを話し合い、校長に提案する取組である。実際に児童の意見を生かし、校則や学校給食、学校の時程等が改善された。

#### ②創意教育

「D o - D r e a m」という時間が設定され、児童が選択して学習する講座が13講座実施されている。外部人材によって運営され、無償の講座や有償の講座がある。内容は工作、衣装作成、パイロット訓練など様々である。

#### ③健康教育

生涯スポーツの取組として、バドミントン、水泳、なわとびに力を入れている。長休憩などには様々な運動イベントを開催している。また、「7560モデル校」となっている。「7560」とは、7日間（1週間）中5日以上、60分以上運動しようという取組である。



### ■ 原州（ウォンジュ）女子高等学校

○アン・ジョウン校長に出迎えられ、訪問団の挨拶、自己紹介を行った後、記念品の交換を行った。その後の会議には、学校の管理職、教務主任、日本語教室担当者の教師と生徒会長、副会長3名、学校紹介を担当する生徒2名が参加した。学校の教育活動については教務主任から、生徒会活動については生徒から日本語による説明を受けた。約1時間、意見交換を行い、その後、学校の施設を見学した。

- ・全校生徒974人、教員数104人である。1945年開校の名門校であるが、5年前に現地に移転し新しい設





備を整えた校舎である。地球科学のモデル校（日本でいうSSH）であり、それを学ぶための施設が充実している。学校の重点目標は、①創意的な体験活動による人間性の強化、②学生中心の多様な運営教育課程、③多様な教科科目の補修学習などである。

- ・ 江原道では、小学校から高校まで給食が無償で支給される。当高校は、夕食（有償）も提供しており、生徒は午後10時まで学校で自習を行っている。その後、私塾に通う学生もいる。
- ・ 学生が中心となる学生自治活動が盛んである。生徒会が学生プランナー大会や小説創作大会、バッジデザイン公募やロビー音楽会など、多くのイベントを開催し、学校運営に積極的に参画している。
- ・ 生徒会の提案に対し、学校は基本的には実現可能にするために協力している。実現が困難な場合は、何を改善することで実現可能になるかを助言し、生徒の手で学校を運営する意識を高めている。



### 3 研修テーマについて

本視察のテーマ「自己肯定感を高める取組」について重点的に視察した。教育庁での説明や、小、中、高校訪問から得た情報を整理すると、自己肯定感を高めるポイントとして次の2点を挙げることができる。

#### ①児童生徒の積極的な学校運営への参画

小学校から高校まで学校運営に児童生徒が参画できる仕組みがある。実際に児童生徒の提案が実現されていることが、児童生徒の主体的な活動を促す大きな要因となっている。学校運営への参画を模擬的に実施するのではなく実現させることで、学校運営への参画を実感し、自己肯定感を高めている。原州女子高等の生徒会長の発言は、自らのビジョンを基にした堂々としたものだった。

#### ②多様な学びを選択できる学習環境づくり

小・中・高において、児童生徒が選択して学ぶ場が準備されている。何を学びたいかを児童生徒自らが選択することを重視している。自分の意思を決定し選択する場、選択できる環境を提供することが、自分の得意なことを認知（メタ認知）し、自己肯定感を高めることにつながっている。意見交換の中で、江原道の小学校長から「学習に遅れの見える児童生徒に対し、補習するだけでなく、他のことで自分ができることを見つけ、自信をつけさせることが学力向上にも有効である」との発言もあった。